

確かな塗装工事にきめ細かな配慮をプラスして 「頼んで良かった」と思われる仕事を実践



代表取締役
白井 克典

建築塗装・吹付・鉄骨塗装・看板
有限会社
ケーエス・アイ塗装工芸
千葉県千葉市緑区鎌取町 2813-69

一般住宅を主体に塗装業を手掛けている『ケーエス・アイ塗装工芸』。二代目として同社の舵取りを担っている白井社長は、抜かりのない確かな施工を徹底しつつ、今の時代に相応しい配慮が行き届いた振る舞いにより、数多くの顧客から支持を集めている。本日は、社長に事業経営における志を伺った。

——白井社長が塗装業界に入られるまでの経緯から、お聞かせ下さい。

当社はもともと、父が経営していた塗装会社なんです。私は社会に出てから異業種でサラリーマンをしていましたが、3年ほどして退職した時に父から「やってみないか」と声を掛けられたんです。小さいころから父が働く姿を見ていたものの、父は「自分の好きなことをしろよ」と言ってくれていましたし、自分が父と同じ仕事をするようになるとは思っていませんでした。今、こうして家業を継ぐことになるなんて、かつては考えてもいませんでした。あれからもう25年が経ちます。

——そんな経緯があったんですね。職人の世界ですから、大変だったでしょう。

おっしゃる通りで、当時はまだ昔ながらの職人ばかりで、仕事は見て覚えるのが当たり前の時代。当然、一から丁寧に教えてくれるわけではありませんから、苦労しましたよ。それに夏場は暑く、冬場は寒い、過酷な現場での作業ですし、梅雨時に雨が続けば、土日であっても現場

に出なければならぬなど、天候にも左右されます。辞めたいと思うこともありましたね。

——そうした下積み時代を乗り越えて、今では立派に会社を牽引しておられるんですね。現在は、何名のスタッフさんがいらっしゃるのですか。

20～30代を中心に10名ほどです。職長とスタッフの2名ほどのチームを幾つか組んで、各現場を任せています。

——となると、それだけの依頼があるということですね。

ええ。お陰様で、特に営業をしているわけではありませんが、ハウスメーカーさんや工務店さん、そして一般の方からもご依頼をいただいています。エリアは県内全域に及びますね。スタッフとその家族の生活が掛かっているわけですから、常に仕事を確保していなければというプレッシャーを感じています。

——それでも安定して受注できているのは立派ですよ。たくさんの依頼が寄せられているのは、何が要因だとお考えですか？

基本的なことではありますが、まずは

「報・連・相」、そしてお客様や近隣住民の方への挨拶など、礼節についての意識を徹底してきたからでしょうか。昔であれば確かな仕事さえしていれば無愛想でも良かったのですが、今の時代は通用しません。迷惑を掛けずに、良い印象を持っていただけるよう配慮しなければならないのです。こうしたことは月に一度、社内で研修会を開いて皆で話し合っているんですよ。

——上手く束ねていらっしゃる事が窺えます。最後に、今後に向けての抱負をお願いします。

会社を大きくしようとは考えていません。「『ケーエス・アイ塗装工芸』に頼んで良かった」と言ってもらえるような会社になりたい。そして、スタッフたちが幸せだと感じられる会社にするのが一番の願いです。彼らには「自分たちの幸せを一番に考えて頑張りなさい」と話していますし、彼らや家族が幸せになることで、会社自体も良い方向へと向かっていければ良いですね。

(取材／2016年6月)



ゲスト 布川 敏和

「白井社長はスタッフの皆さんをとてもしっかり取りまわっていらっしゃるという印象を受けました。御社でなら、ただ単に仕事だから働くというのではなく、やり甲斐を持って生き生きと仕事に打ち込めそうです」

